

## 第3回 石岡市小中学校統合計画審議会

日時 平成30年2月23日（金）

午後3時00分

場所 石岡市役所 本館1階 大会議室

### 次 第

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 教育長あいさつ

4. 協議事項

(1) 地区懇談会の開催状況及び主な意見について（資料1）

(2) 今後のスケジュールについて（資料2）

(3) その他

（参考資料 地区懇談会の主な意見）

（参考資料 地区懇談会時配布資料一式）

5. 閉 会

## 地区懇談会の開催状況及び主な意見

### 1. 地区懇談会開催状況

日時	開催場所	出席者数			
		内訳			
		学校 関係	PTA (保護者を含む)	一般	
1月17日(水)	東地区公民館(石岡中学校区内)	6	3	3	
1月18日(木)	府中地区公民館(府中中学校区内)	16	8	3	
1月19日(金)	城南地区公民館(城南中学校区内)	14	7	3	
1月23日(火)	中央公民館(旧柿岡中学校区内)	18	8	4	
1月24日(水)	国府地区公民館(国府中学校区内)	16	9	5	
1月25日(木)	園部地区コミュニティセンター(園部中学校区内)	14	4	6	
1月30日(火)	恋瀬地区公民館(旧有明中学校区内)	26	13	7	
1月31日(水)	小桜地区公民館(旧八郷南中学校区内)	15	6	6	

### 2. 地区懇談会 主な意見

#### (1) 学校規模について

##### (複式学級について)

- ・複式学級の解消は優先して早期に取り組むべき。(PTA 一般)
- ・複式学級が組み込まれている小学校では、集団学習、集団活動において支障をきたしている。(学校)
- ・人間関係づくりは小さいときが基本で、大人になった時の適応を考えればこの時期からある程度の規模を経験させてあげることが必要。(PTA)
- ・指導に係る教員の負担が大きい。(学校)

##### (適正規模について)

- ・小規模校であれば子どもたちを丁寧に指導してくれるのではないかと。小学校くらいはこのままの規模で存続してほしい。(PTA 一般)
- ・統合しても1クラス少数の小規模校であれば、もっと大きな枠組みも必要。(PTA 一般)
- ・児童生徒数の推計からすると、統合してもなお少数の学校もあるが、統合後数年でまた再度統合することのないようにしてほしい。(PTA 一般)
- ・統合後の小学校が1クラス少数であると、中学校へ進学した際に適応が心配。いずれにせよバスで通学するならば、適正規模となる枠組みで統合してもいいのではないかと。(PTA 一般)

## 2 通学・学区について

### (通学について)

- ・学校が遠くなると、子どもの送迎などの保護者負担が大きくなる。スクールバスなど配慮してほしい。(PTA)
- ・学校がさらに遠くなり通学時間で子どもの負担も増え、またスクールバスによって経済面での負担も増える。なるべく負担が増えないよう配慮してほしい。(PTA 一般)

### (学区について)

- ・交通事情も変わっているなかで、学区を見直すことも必要ではないか。(PTA 一般)
- ・学校をあわせるだけの再編ではなく、学区の再編も必要ではないか。(PTA 一般)

## 3 小中一貫教育について

- ・石岡小と国府中は現在でも連携のとれた学校である。小中一貫のモデル校としてすすめてほしい。(PTA)
- ・園部地区には地域的な面からも小中一貫校の取り組みがいいのではないか。(PTA)
- ・中心に小中一貫校があれば、中心市街地の活性化や児童生徒数の増加などさまざまなメリットがあるのではないか。(PTA 一般)

## 4 地域と学校の関わりについて

### (地域コミュニティーについて)

- ・学校の適正配置のために、これまでの地域コミュニティー組織が活動できないことにならないよう考えてほしい。(一般)
- ・学校が中心となって地域がつながっているところも十分にある。統合されれば地域の連携ができなくなる。学校を減らさないことも考えてほしい。(一般)
- ・幼少のころから、学校を中心とした地域に育てられ、支えられてきた。学校がなくなったとしても、これまでの地域と学校のつながりをなくさないようにしてほしい。(P 一般)

## 5 その他

### (人口減少)

- ・学校再編で学校を減らす取り組みではなく、定住人口の減少や流失を防ぐ取り組みに力を入れるべき。(PTA 一般)
- ・もっと子育て支援策に取り組むべき。(PTA 一般)

### (その他)

- ・校舎や学校施設、通学路の整備は統合前にしっかりと行ってほしい。(PTA 一般)
- ・具体的に何年後を見据えた計画をつくるのか。(PTA 一般)
- ・統合再編計画の案ができた時点で地域や保護者に説明をしてほしい。(PTA 一般)
- ・学校が廃校となっても、防災地域活動など地域の中心的な役割を担う位置付けにしてほしい。(PTA 一般)

## ■今後のスケジュール

資料2

年月	開催	統合計画審議会での内容	その他
平成30年 1月			・地区懇談会の開催（全8地区）
2月	3回	・地区懇談会における意見の報告 ・今後のスケジュールと検討内容の確認	
3月			
4月			
5月	4回	・適正規模から見た統合再編パターン案の検討 ・適正配置（学校配置）の検討	
6月	5回	・統合校，単独校の施設整備等の検討・確認 ・統合再編の時期の検討（優先順位等） 他	
7月	6回	・答申案（素案）の確認 ・答申案の確定	・学区審議会 ・統合計画策定委員会（市）開催（第1回）
8月		・答申書の提出	・素案の公表 ・地域への説明会を開催 ・素案に対する意見の募集（市報，市HPなど）
9月			
10月			
11月			・統合計画策定委員会（市）開催（第2回）
12月			・市議会へ説明
平成31年 1月			・統合再編計画公表
2月			
3月			

## 地区懇談会の主な意見

## 東地区公民館（石岡中学校区内）

- ・統合はやむを得ないと思うが、通学手段としてのバスの利用料について見直すべきであると思う。(PTA)
- ・利用する人から料金をとるのは理解できるが、教育機会の均等をうたうのであれば無料にしていくべきではないかと思う。(PTA)
- ・教科担任制などの効果を考えると園部地区においても小中一貫校への取り組む組も適当かと思う。(一般)
- ・小中一貫校への取り組みは賛成であるが、先生方が9年間で頻繁に変わるのはいくはないと思う。(一般)
- ・統合により遠距離通学となる子どもたちにバスを利用し通学させるのは安全確保の観点からも有効であると思う。(PTA)
- ・バスの利用に際しての利用料については考慮していけば合併、統合にも理解が進むのではないか。(PTA)
- ・複式学級を解消するにあたって、学校を統合する、なくすのは簡単だが、通学距離の問題が必ず出てくる。そのときに無償化か費用負担かが課題だと思う。(PTA)
- ・財政負担の面で、学校を維持していく経費を示した上で、学校の存続を問わないと、統合再編は進まないと思う。(一般)
- ・複式学級の解消を最優先とするのは理解できます。その次の優先順位としてクラス替えができる学校規模とするのか、地域コミュニティーを優先するのかはつきりさせたいと思う。(一般)
- ・高浜・三村・関川の小学校を統合しても学年1クラスにしかならないのであれば、南小も枠組みに入れて、中学校に入学する形もあるのではないかと思う。(PTA)
- ・子どもたちを第一に考え、統合を考えていくべき。(PTA)
- ・子どもたちが安全に平等に教育を受けられる環境を整えていくべき。(PTA)
- ・小規模校の子どもたちが、石岡中のような大きな学校に入学したときに大変な思いをすることのないように環境を整えてほしい。(一般)

## 府中地区公民館（府中中学校区内）

- ・複式学級であることで、教科指導に苦慮している。相対的に教員数が少ないことで、調整が難しい。（学校）
- ・複式学級であると子どもたちは少しさびしいのかなと思う。先生方は色々な面で工夫されているかと思います。（学校）
- ・全員の顔がわかってとても良い面もあるが、人数が少ない分、児童も教員も負担が多い面がある。（学校）
- ・クラス替えのない小規模校であると、一度人間関係が崩れてしまうと、回復が難しい。ある程度の大きい集団で育ててあげることが望ましいのではと思う。（学校）
- ・資料や説明からですと、小規模校であることのほうがデメリットが多いのではないかと思う。（PTA）
- ・ある程度の人数を確保して適正規模ですすめてほしい。（PTA）
- ・高浜・三村・関川，瓦会・恋瀬，小幡・小桜は統合しても学年1クラスにしかならない。複式学級ではないが，児童生徒の人間関係の固定化が懸念される。（PTA）
- ・もっと広域の統合をしたほうが良いと考えるならば，高浜・三村・関川に南，瓦会・恋瀬に園部・東成井，小幡・小桜に柿岡・吉生・葦穂なども考えられる。（PTA）
- ・小中一貫校を考えなければ府中中と国府中も考えられるのではないかと思う。（PTA）
- ・優先順位はあると思うが統合再編を進めるのであれば大きな枠組みで考えたほうが良いと思う。（PTA）
- ・地域の意見を十分に聞いてすすめてほしい。（一般）
- ・統合先への通学手段の確保をしてほしい。（一般）
- ・統合することで，子どもたちが遠くへ通わなければならないことへの不安も多いので，安全面やバスの負担などしっかりと説明していただきたい。（一般）
- ・子供たちのことを第一に考えて，地域や学校や保護者，教育委員会でよりよい方向性を考えていくことが大切であると思います。（学校）

### 城南地区公民館（城南中学校区内）

- ・少人数であることで、1人1人が設備や機器を十分に活用できるが、人間関係においては、クラス替えができないと、回復に時間がかかる。（学校）
- ・小人数であるため、大集団にはいったときになかなか自分を出せない部分も見受けられる。（学校）
- ・複式学級のメリットはなかなか見えない。可能であれば複式が解消できることが望ましいと思う。（学校）
- ・特に学力の向上がはかりにくい。また、学年が違くと指導が難しい。（学校）
- ・小人数であるので、児童全員のことがわかる。一方で大規模校へ進学することへの不安がある。（学校）
- ・複式学級では、学習内容が違うので授業が非常に難しい。（学校）
- ・複式学級の授業は、さらに指導力が必要とされ、非常に難しい。児童にとっても、適正規模での学習がいいのではないか。（学校）
- ・小規模な中学校はクラス替えができないことで、人間関係の固定化が懸念される。また、どの部活動も人数が少なく運営や活性化が難しい。（学校）
- ・一方で大規模校には人間関係の広がりや部活動の活性化が期待できる。（学校）
- ・小規模校であれば子どもたちを丁寧に指導してくれるのではないか。小学校くらいはこのままの規模で存続してほしい。（PTA）
- ・少人数の小学校から大きな中学校へ行く場合、どうしても意見出せなくなかなかなじめないかと思う。小学校のうちから、大きな集団でも自分の意見がいえるような教育をしてほしい。（PTA）
- ・小規模校であれば子どもたちを丁寧に指導してもらえと思う。せめて小学校くらいは現在の規模で存続してほしい。（PTA）
- ・子どもたちのことをよく見ていただけるのは、小規模校ならではだと思ふ。（PTA）
- ・高浜・三村・関川の三校統合の中でも小規模校であれば南小を含めた枠組みもあるのでは。（PTA）
- ・人間関係づくりは小さいときが基本で、大人になった時の適応を考えればこの時期からある程度の規模を経験させてあげることが必要。（PTA）
- ・学校施設や環境整備をきちんと整備してから統合に入ってほしい。（PTA）
- ・小中一貫校の取り組みや、一方で地域のコミュニティースクールなど、様々な取り組みがなされているので、情勢を見据えた答申をお願いしたい。（PTA）
- ・複式学級が解消されたとしてもクラス替えができないのは明らかで、今後は2学級以上の枠組みでの案を考えたほうが、将来社会で活躍する子どもたちにはメリットがあるのではと思う。（PTA）

## 国府地区公民館（国府中学校区内）

- ・部活動が少ない。他の中学校への進学から毎年5人から6人減っている。(学校)
- ・1小1中のメリットがあり小学校から中学校への継続連携がとりやすく、目が届きやすい。(学校)
- ・この地域は、地域と保護者のつながりが強い。現在も2クラスでクラス替えも可能となっている。(学校)
- ・石岡小と国府中はPTAも含めて連携がしっかりとれている。まずは複式を解消してから当該地区で取り組んでほしい。(PTA)
- ・小中一貫校をモデル校としてすすめてほしい。(PTA)
- ・色々なメリットとデメリットがあるかと思うが、小中連携が強いので継続できるような形をとっていただきたい。(PTA)
- ・学区の編成、変更をしてはどうか。(一般)
- ・複式学級の解消を最優先として、学校をくっつけるのではなく、学区の再編も考えるべき。(一般)
- ・これまでもあったように国の方針はすぐが変わってしまう。急いでやらないほうがいいのではないか。(一般)
- ・石岡小と国府中を連携校としてすすめてはどうか。(PTA)
- ・中心市街地の活性化と児童生徒数の増加をねらうのであれば、中心に小中一貫校があれば、様々なメリットが出てくると思う。(PTA)
- ・園部地区についても小中一貫校をとりいれてもいいのではないかと思う。(一般)
- ・統合してもなお1学年1学級にしかならないのであれば、もっと広域で考えてもいいのではないかと思う。(PTA)
- ・地区懇談会の開催の周知の方法をもっと考えたほうがよい。(PTA)



## 中央公民館（旧柿岡中学校区内）

- ・人間関係の発達には思春期を迎える前に大きな生活環境を経験させたほうが良いと言われている。（学校）
- ・1クラス20人程度だと、児童一人一人に目が届くが、職員の数は足りない場面もあり、校外学習では教師だけでなく保護者にも協力を求める場合もある。（学校）
- ・よく目が届くがゆえに、人間関係の構築について考える必要がある。（学校）
- ・1人1人によく目が届く一方で、集団活動に制限があり、3人から7人程度では多様な考えが出にくく、また複式学級の指導には高い技量が必要。（学校）
- ・切磋琢磨できる環境ができた。学力や部活動などでも向上している。一方で人間関係を上手に築けない生徒もいるので、小学校と連携し取り組んでいる。（学校）
- ・これまで地域と学校が連携して協力してきたが、統合となっても地域のコミュニティーは大事にしてもらいたい。（PTA）
- ・地域と協力して、児童にはもちつき体験などを行っている。（PTA）
- ・とても不安で、子どもたちの将来を見据えた計画を望む。（PTA）
- ・持続可能な学校規模とした配置や旧中学校区にとらわれない枠組みを検討していただきたい。（一般）
- ・21年の枠組みは、旧中学校単位であるが、現在の中学校単位で検討してはどうか。（一般）
- ・統合してもなお、学年1クラスしかならないのであれば、2度3度再統合することなく持続可能な枠組みにしてほしい。（一般）
- ・学区が広域になったときの子どもたちの負担をどうするかを考える必要がある。（一般）
- ・学校のバス発着所や保護者の送迎の対策をとるべき。（一般）
- ・施設の整備、通学路の整備はどのようになるのか。（一般）
- ・先を見据えすぎると逆に子どもたちのためにならないという思いもあります。（一般）

### 園部地区コミュニティーセンター（園部中学校区内）

- ・三校で協力しながら学力の向上を努めてきた。クラス替えができる環境は子どもたちの期待が上がっている。（学校）
- ・外国人籍の生徒がおり，授業を工夫して進めている。（学校）
- ・小小連携小中連携を進めており，学力においても向上している。様々な場面で切磋琢磨する機会を設けている。（学校）
- ・小規模なクラスにおいては，人間関係の固定化が見られ，トラブルが発生した場合に解決に時間がかかる場合がある。（学校）
- ・小規模で家族的な雰囲気はあるが，部活動の活気が少しさびしい面もある。（学校）
- ・園部小と東成井小の統合についてはいいと思う。登下校の課題があると思う。（PTA）
- ・バス通学による体力低下が懸念される。（PTA）
- ・クラス替えができる環境にしてほしいので統合はやむを得ないかと思う。（一般）
- ・園部小，東成井小の統合は必至だと思う。一方で地域の方は学校がなくなる事の不安が残ると思う。（一般）
- ・園部中と八郷中が統合してもいいのではないかと思う。（一般）
- ・スクールバスの利用により上級生下級生といった校了が生まれるのではないか。（一般）
- ・バス停まで歩かせるといった方針を過程でも実践すれば体力の低下は防げるのではないかと思う。（一般）
- ・保育所からの人間関係が父兄も含めてずっと続くのはあまりいい効果が生まれな  
いと思う。（保育所）
- ・園部地区には小中一貫校の取り組みがいいと思う。他の地域からの流れも引き込  
みやすいかと思う。（一般）
- ・複式学級の解消をはかるべき。（一般）

## 恋瀬地区公民館（旧有明中学校区内）

- ・児童一人一人の変化に気付きやすく、教員が全児童を把握しているので、適切な指導ができる。また行事ごとに活動がしやすい。（学校）
- ・一方でクラス替えができないことでの人間関係の固定化や、多様な意見が出にくいこと、集団スポーツの競技が成立しにくいといったことがあげられる。（学校）
- ・これらの解消のため小小連携を取り入れているが、立地的な部分で回数を確保しにくい。（学校）
- ・縦割班活動を多く取り入れており、上級生が下級生の面倒を見ている。（学校）
- ・小規模校であるため、PTA活動においても保護者の負担が多い。（学校）
- ・どこの地域でも同様だが、小学校は地域とのつながりが強いので配慮してほしい。（PTA）
- ・前回の統合を経験しており、その時の不安感から出席したが、学校統合は地域コミュニティを壊すと思う。（PTA）
- ・地域コミュニティのこともあるが、二校の統合ではなく大きな統合がいいのではないか。（一般）
- ・複式学級が発生するまでは、単独校でもよいのではないか。親の負担子どもの負担を考えれば近くに学校があったほうがよいと思う。（PTA）
- ・保護者だけでなく子どもたちの意見も聞いてみてはどうか。（PTA）
- ・小中一貫校など、特色ある学校づくりをしたほうがよい。（一般）
- ・統合計画書ができたときには、学校ごとに説明会を実施していただきたい。（PTA）
- ・小中一貫校をつくるならば、石岡地域と八郷地域にそれぞれ1校ずつを設置してもらいたい。（PTA）
- ・通学路の整備のほか、道路整備に伴う学区の柔軟な対応を検討すべき。（PTA）
- ・統合しても小規模校であるなら瓦会小、恋瀬小の2小の統合は、あまり意味がないと思う。（PTA）
- ・バス利用料の再検討をお願いしたい。（PTA）
- ・小規模校は他校に比べよい環境で教育されていると思う。小小連携を推進してほしい。（PTA）
- ・統合するしないにかかわらず、子どもの安全を最優先に考えていただきたい。（PTA）

### 小桜地区公民館（旧南中学校区内）

- ・個別指導に近い授業ができる。全児童を対象にした活動ができる。（学校）
- ・人間関係の固定化。集団スポーツが成立しにくい。（学校）
- ・多様な考えや意見に触れる機会が少ない。競争意識の芽生えが乏しい面がある。（学校）
- ・小小連携として宿泊学習、校外学習の協働実施は興味関心が高くよい傾向にある。（学校）
- ・人間関係の深まりがある。教師全員が児童に目がとどく。（学校）
- ・一方で人間関係の固定化により、競い合う環境は育ちにくい。（学校）
- ・教員の意思疎通は図りやすい。教員の連携が新人・ベテランの両極端になっている。（学校）
- ・小幡小と小桜小の統合であれば子どもたちは早くなじむと思う。（PTA）
- ・学校がなくなる事による地域コミュニティーの減退が心配である。（PTA）
- ・**統合には賛成であるが、時期はいつになるのか。案を示したなかで、複式学級の解消を優先と考えている。**（PTA）
- ・統合を早期に取り組む学校と長期で取り組む学校を分けたほうがよい。（PTA）
- ・**統合して数年も経たずに再統合することはやめたほうがよい。**（PTA）
- ・統合するのであれば、まず通学路の整備などのインフラ整備が必要である。（PTA）
- ・子どもたちのことを第一に考えるのは当然であるが、地域のコミュニティーも大事にしていかなければいけないと思う。（PTA）
- ・地域と学校ともに大事であるので、今の状況を崩してほしくない。（一般）
- ・**小幡小と小桜小の二校の統合で、教員数も増えない、クラス数も増えないのであれば、もっと大きくしたほうが子どもたちのためにはいいと思う。**（一般）
- ・地域のことを考えれば、学校は残してもらったほうがよい。（一般）
- ・子どもたちにとって地域の関心は重要だと思う。（一般）
- ・統合の時期がいつになるのかを明確にしないと地域や集落は不安になるだけなので統合時期を示したほうがよい。（一般）
- ・通学路を含めた統合再編を考えたほうがよい。（一般）
- ・幼少のころから、学校を中心とした地域に育てられ、支えられてきた。学校がなくなったとしても、これまでの地域と学校のつながりをなくさないようにしてほしい。（一般）
- ・廃校になった学校に利用については防災活動など地域の中心的な役割を担う位置付けにしてほしい。

# 石岡市小中学校適正規模・適正配置に係る地区懇談会

日時 平成 30 年 1 月 日 ( )  
午後 7 時 00 分から午後 8 時 30 分  
場所

## 次 第

### 1. 開 会

### 2. 教育長あいさつ

### 3. 職員紹介

### 4. 説明項目

(資料 1) 市内小中学校の児童生徒数について

(資料 2) 平成 21 年度答申書における小中学校の統合案

(資料 3) 平成 21 年度答申書時の枠組みにおける 30 年度以降の推移

(資料 4) 適正規模のメリット・デメリット

(資料 5) 小中学校統合計画審議会について

(参考資料)

- ・市内小中学校位置図
- ・市内小中学校施設等の状況について
- ・市内小中学校児童生徒数の今後の推移
- ・県内小中一貫教育の取組について

### 5. 懇 談

### 6. 閉 会

メモ

- ・懇談会の資料，説明内容について，ご意見等がございましたら事務局までご連絡ください。

T E L 4 3 - 1 1 1 1

F A X 4 3 - 1 1 1 7

メールアドレス [kyouikusoumu@city.ishioka.lg.jp](mailto:kyouikusoumu@city.ishioka.lg.jp)

※取りまとめの都合上，2月9日（金）までをお願いします。

## 平成29年度 市内小中学校児童生徒数

学年 学校名	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
石岡小	46	2	41	2	62	2	45	2	52	2	50	2	296	12 (14)
府中小	74	3	74	3	71	2	69	2	80	2	73	2	441	14 (17)
高浜小	8	1	9	1	10	1	16	1	12	1	17	1	72	6 (7)
東小	82	3	94	3	101	3	80	2	98	3	95	3	550	17 (22)
三村小	14	1	16	1	8 ※		9 ※		16	1	19	1	82	5 (6)
関川小	8	1	3 ※		6 ※		6	1	7 ※		3 ※		33	4 (4)
北小	4	1	5 ※		10 ※		4 ※		6 ※		12	1	41	4 (5)
南小	64	2	68	2	71	2	78	2	61	2	81	3	423	13 (15)
杉並小	57	2	62	2	59	2	68	2	56	2	62	2	364	12 (15)
園部小	30	1	33	1	38	1	39	1	36	1	42	2	218	7 (9)
東成井小	33	1	15	1	23	1	20	1	18	1	24	1	133	6 (6)
瓦会小	7	1	6	1	12	1	13	1	7	1	15	1	60	6 (7)
林小	20	1	18	1	29	1	27	1	22	1	32	1	148	6 (7)
恋瀬小	10	1	10	1	14	1	11	1	18	1	26	1	89	6 (8)
葦穂小	12	1	11	1	15	1	10	1	13	1	16	1	77	6 (7)
吉生小	3	1	7 ※		4 ※		9 ※		7 ※		3	1	33	4 (4)
柿岡小	30	1	33	1	23	1	31	1	32	1	31	1	180	6 (8)
小幡小	20	1	17	1	18	1	14	1	18	1	20	1	107	6 (7)
小桜小	15	1	12	1	20	1	16	1	13	1	15	1	91	6 (8)
計	537	26	534	23	594	21	565	21	572	22	636	27	3,438	146 (176)

※複式学級のため児童数のみを記載。学年ごとの学級数合計には含めていない

学年 学校名	1年		2年		3年		計	学級数
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数		
石岡中	209	6	178	5	193	5	580	16 (18)
府中中	139	4	158	5	179	5	476	14 (17)
城南中	43	2	36	1	42	2	121	5 (6)
国府中	72	2	53	2	49	2	174	6 (7)
園部中	42	2	48	2	71	2	161	6 (8)
八郷中	138	4	176	5	173	5	487	14 (16)
計	643	20	649	20	707	21	1,999	61 (72)

・児童生徒数、学級数は平成29年5月1日現在

・児童生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数の( )は特別支援学級を含む

## 平成21年度答申書における小中学校の統合案

## 1 小学校の統合案

学 校 名	平成20年度		平成26年度		統 合 ( 案 )	平成26年度		学 校 の 場 所	統 合 の 優 先 度 総合的に判断 した場合
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数		
高浜小学校	112	6	110	6	高浜+三村+関川	244	9	高浜小	A
三村小学校	101	6	91	6					
関川小学校	61	6	43	5					
府中小学校	517	16	515	17	府中+北	616	18	府中小	A
北小学校	92	6	101	6					
園部小学校	234	8	199	7	園部+東成井	338	12	園部小	A
東成井小学校	139	6	139	6					
瓦会小学校	109	6	96	6	瓦会+恋瀬	189	7	恋瀬小	A
恋瀬小学校	109	6	93	6					
林小学校	182	6	171	6	林+葦穂+吉生+柿岡	471	14	柿岡小	A
葦穂小学校	83	6	76	6					
吉生小学校	75	6	59	5					
柿岡小学校	280	11	165	6					
小幡小学校	143	6	108	6	小幡+小桜	209	7	小桜小	A
小桜小学校	120	6	101	6					
石岡小学校	404	12	297	12	単 独 校	297	12		
東小学校	650	19	675	19	単 独 校	675	19		
南小学校	512	17	385	12	単 独 校	385	12		
杉並小学校	523	17	437	13	単 独 校	437	13		

※統合の優先度

A 急ぐ必要がある小学校

B やや急ぐ必要がある小学校

C 急ぐ必要がない小学校, 又は統合の必要がない小学校



## 2 中学校の統合案

学 校 名	平成20年度		平成32年度		統合(案)	平成32年度		学校の場所	統合の優先度 総合的に判断した場合
	生徒数	学級数	生徒数	学級数		生徒数	学級数		
石岡中学校	552	15	471	13	石岡中+城南中	593	16	石岡中	A
城南中学校	188	6	122	4					
府中中学校	515	14	497	14	府中中+国府中	633	17	府中中	B
国府中学校	227	7	136	6					
有明中学校	168	5	73	3	有明中+柿岡中+ 八郷南中	373	10	柿岡中	A
柿岡中学校	334	10	210	6					
八郷南中学校	148	6	90	3					
園部中学校	216	6	156	6	単 独 校	156	6		B

## ※統合の優先度

- A 急ぐ必要がある中学校
- B やや急ぐ必要がある中学校
- C 急ぐ必要のない中学校, 又は統合の必要性がない中学校

## 平成21年度答申書時の枠組みにおける30年度以降の推移

## 小学校

対象校	平成30年度		平成35年度		学年	平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
高浜小学校	64	6	94	6	1年	30	1
三村小学校	73	6	48	5	2年	34	1
関川小学校	36	4	40	4	3年	27	1
					4年	34	1
					5年	32	1
					6年	25	1
					合計	182	6

対象校	平成30年度		平成35年度		学年	平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
府中小学校	439	16	414	15	1年	60	2
北小学校	37	4	53	6	2年	86	3
					3年	78	3
					4年	84	3
					5年	80	3
					6年	79	3
					合計	467	17

対象校	平成30年度		平成35年度		学年	平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
園部小学校	202	9	159	6	1年	42	2
東成井小学校	127	6	128	6	2年	50	2
					3年	46	2
					4年	50	2
					5年	55	2
					6年	44	2
					合計	287	12

対象校	平成30年度		平成35年度		学年	平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
瓦会小学校	58	5	76	6	1年	20	1
恋瀬小学校	80	6	80	6	2年	28	1
					3年	23	1
					4年	30	1
					5年	25	1
					6年	30	1
					合計	156	6

対象校	平成30年度		平成35年度		学年	平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
林小学校	140	6	140	6	1年	56	2
葦穂小学校	66	6	57	6	2年	68	2
吉生小学校	35	3	49	5	3年	61	2
柿岡小学校	169	6	127	6	4年	74	3
					5年	60	2
					6年	54	2
					合計	373	13

対象校	平成30年度		平成35年度		学年	平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
小幡小学校	101	6	85	6	1年	27	1
小桜小学校	93	6	86	6	2年	34	1
					3年	27	1
					4年	24	1
					5年	28	1
					6年	31	1
					合計	171	6

### 資料3

#### 小学校（単独校）

小学校	平成30年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
石岡小学校	293	12	235	12
東小学校	551	17	541	17
南小学校	416	14	352	13
杉並小学校	363	12	316	12

#### 中学校

対象校	平成30年度		平成41年度		学年	平成41年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数		生徒数	学級数
府中中学校	444	14	378	12	1年	153	5
国府中学校	175	7	116	6	2年	183	6
					3年	158	5
					合計	494	16

#### 中学校（単独校）

中学校	平成30年度		平成35年度		平成41年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
石岡中学校	681	22	562	18	529	16
園部中学校	156	6	172	6	138	6
八郷中学校	472	15	366	12	344	11

- ・児童生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない
- ・平成30年度から平成35年度の児童生徒数及び学級数は、平成29年5月1日現在の住民記録登録者数から推計
- ・平成30年度以降の学級数は、1学級35人、複式学級は2学年で16人以下で試算

#### 統合によるメリット・デメリット

##### メリット

- ・旧中学校区を単位とする地域コミュニティ，地理的，歴史的な成り立ちに配慮した学校配置ができる。
- ・当面複式学級となる小学校はない。

##### デメリット

- ・クラス替えができない小学校がある。
- ・教科担任の配置ができない中学校がある。

## 資料4

### 適正規模のメリット・デメリット

#### 1 適正規模になることの効果

##### (1) 児童生徒への効果

- ・一定の学校規模が確保されることによって、児童生徒が色々な人間関係の中で学ぶ環境が整備される。
- ・多様な個性を持つ児童生徒や教員とふれ合うことで、社会性や人間性を学び心の豊かさや心身のたくましさを育むことができる。
- ・いい意味での競争心が生まれ、学習意欲等の向上につながる。
- ・体育や部活動、学校行事等が大きな集団で実施できるようになり、活動の幅が広がる。

##### (2) 学校運営に関する効果

- ・教員数の増加により、校内の教員同士による打合せや課題研究などが可能となる。
- ・教員数の増加により、校務分掌が明確になり、教員一人あたりの業務を分散化できる。
- ・PTAの規模が大きくなるため、保護者の負担が軽減されるとともに、組織的な活動が可能となる。

#### 2 小規模校のメリット・デメリット

##### (1) メリット

- ・一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ・意見や感想を発表できる。
- ・教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である。
- ・地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。

##### (2) デメリット

- ・児童生徒同士で切磋琢磨する機会が少ない。
- ・体育や運動会、学校行事等で制約が生まれ、集団行動による教育効果が下がる。
- ・人間関係が固定化しやすく、多様な考えに触れることが難しい。
- ・進学等で大きな集団へ所属する際に、適応に困難をきたす可能性がある。
- ・免許外指導が生じ、教員同士で指導力を高め合う環境が作りにくい。

(茨城県教育委員会作成 学校統合事例集 (平成29年3月) より)

## 石岡市小中学校統合計画審議会について

### 1 審議会の組織構成及び目的

- ・ 審議会は市議会の議員，自治会等の代表，PTA連絡協議会の代表，校長会の代表，幼稚園・保育所の保護者の代表，青少年関係団体の代表，学識経験者から20名以内で組織しています。
- ・ 市立小中学校の教育環境の整備及び学校における教育の充実を目的として，市立小中学校の統合計画を検討するための審議会であり，教育委員会の諮問に応じ，審議し，答申をいたします。

### 2 審議会で検討された小中学校における適正規模の基本的な考え方

- (1) 小学校においては，クラス替えが可能な各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。(複式学級の解消)
- (2) 中学校においては，クラス替えが可能で，全ての教科の担任が配置できる9学級以上が望ましい。(国・社・数・理・英に複数の教員配置が可能)

### 3 審議会における主な意見

- ・ 子ども達の事を第一に考えて教育環境，学校施設の整備や地域のコミュニティにも配慮した再配置を計画，検討したほうがよい。
- ・ 廃校になった学校施設，跡地の有効利用について，行政内部でも十分協議してもらいたい。
- ・ 統合校となる学校は，学校環境や施設の修繕整備を先に実施してから統合を進めるべき。
- ・ 小中一貫教育について，効果があり推進するという事であればモデル校や想定する学校の見通しを持っておくべき。
- ・ 人口減少が明確な状況において，持続可能な学校規模とした配置も検討すべき。
- ・ 学区の広域化による子ども達の負担も考慮すべき。
- ・ 今後さらに少子化が進んでいくと思われるが，複式学級については早期に解消をはかるべき。

## 4 審議会のこれまでの経過と今後の見通し

## ・開催状況

会 議		主な内容
第1回	平成29年8月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委嘱状の交付</li> <li>・会長・副会長の選出</li> <li>・諮問書の提出</li> <li>・審議会の概要について</li> <li>・石岡市小中学校の現状について</li> <li>・今後の進め方及びスケジュールについて</li> <li>・意見交換</li> </ul>
第2回	平成29年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区懇談会に向けての方針整理</li> <li>・小中学校の適正規模・適正配置からみた課題の整理</li> </ul>
地区懇談会	平成30年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の学区を単位に各地区の方々の意見を伺う。</li> </ul>

## ・今後の見通し

会 議		主な内容
第3回	平成30年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区懇談会における意見について説明</li> <li>・統合再編について</li> <li>・統合再編の時期について</li> </ul>
第4回	平成30年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答申書素案作成</li> </ul>

・平成30年5月以降 答申書の提出 → 石岡市統合再編計画の策定







市内小・中学校施設の状況

	校舎 建築年	経過年	体育館 建築年	経過年	敷地面積 (㎡)	校舎面積 (㎡)	体育館面積 (㎡)	耐震補強工事実施状況
石岡小	S43	49	S46	46	32,003	5,322	1,500	H24校舎 H22体育館
府中	S43	49	S47	45	24,230	5,252	857	H22校舎 H22体育館
高浜	S54	38	S54	38	15,839	3,014	784	H27校舎 H25体育館
東	H22	7	H24	5	25,305	6,421	1,146	
三村	S41	51	H5	24	10,774	2,163	795	H26校舎
関川	S60	32	S51	41	13,775	1,876	412	H22体育館
北	H25	4	S53	39	13,914	1,872	689	H22体育館
南	S51	41	S54	38	28,621	4,071	859	H22校舎 H22体育館
杉並	S53	39	S53	39	23,625	4,158	894	H27校舎 H27体育館
園部	S55	37	S61	31	18,911	2,976	730	H27校舎
東成井	S51	41	H1	28	14,389	2,134	738	H27校舎
瓦会	S54	38	S62	30	11,223	2,143	734	
林	S56	36	S62	30	15,913	2,882	815	H26校舎
恋瀬	S61	31	H2	27	12,984	2,390	741	
葦穂	H5	24	S60	32	13,416	2,602	695	
吉生	S53	39	H2	27	13,402	1,993	755	
柿岡	S48	44	S58	34	17,740	3,222	784	H22校舎
小幡	S59	33	S58	34	15,171	2,575	704	
小桜	H6	23	S59	33	15,188	2,765	706	
石岡中	S54	38	S57	35	25,722	5,676	1,773	H27校舎
府中中	S55	37	S45	47	31,001	6,668	991	H21体育館
城南中	S37	55	H7	22	31,467	3,202	1,011	H21校舎
国府中	S58	34	S59	33	33,024	4,989	1,597	
園部中	H3	26	S45	47	22,783	3,986	908	H12体育館
八郷中	H24	5	S44	48	39,020	6,740	1,155	H12体育館

平成29年5月1日現在

- ・昭和56年以前に建てられた校舎及び体育館において、耐震診断の結果is値0.7以下の建物を対象に耐震工事を実施
- ・府中中学校は平成14年度に一部校舎の改修工事を実施



## 市内小中学校児童生徒数の今後の推移

【小学校】 (H30年度からH35年度)

### 石岡小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	47	2	36	2	36	2	36	2	36	2	44	2
2年	46	2	47	2	36	2	36	2	36	2	36	2
3年	41	2	46	2	47	2	36	2	36	2	36	2
4年	62	2	41	2	46	2	47	2	36	2	36	2
5年	45	2	62	2	41	2	46	2	47	2	36	2
6年	52	2	45	2	62	2	41	2	46	2	47	2
合計	293	12	277	12	268	12	242	12	237	12	235	12

### 府中小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	71	3	70	2	73	3	68	2	77	3	55	2
2年	74	3	71	3	70	2	73	3	68	2	77	3
3年	74	3	74	3	71	3	70	2	73	3	68	2
4年	71	3	74	3	74	3	71	3	70	2	73	3
5年	69	2	71	3	74	3	74	3	71	3	70	2
6年	80	2	69	2	71	3	74	3	74	3	71	3
合計	439	16	429	16	433	17	430	16	433	16	414	15

### 高浜小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	9	1	17	1	19	1	13	1	18	1	18	1
2年	8	1	9	1	17	1	19	1	13	1	18	1
3年	9	1	8	1	9	1	17	1	19	1	13	1
4年	10	1	9	1	8	1	9	1	17	1	19	1
5年	16	1	10	1	9	1	8	1	9	1	17	1
6年	12	1	16	1	10	1	9	1	8	1	9	1
合計	64	6	69	6	72	6	75	6	84	6	94	6

### 東小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	96	3	70	2	101	3	82	3	104	3	88	3
2年	82	3	96	3	70	2	101	3	82	3	104	3
3年	94	3	82	3	96	3	70	2	101	3	82	3
4年	101	3	94	3	82	3	96	3	70	2	101	3
5年	80	2	101	3	94	3	82	3	96	3	70	2
6年	98	3	80	2	101	3	94	3	82	3	96	3
合計	551	17	523	16	544	17	525	17	535	17	541	17

### 三村小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	10	1	9	1	8	1	8	1	5	1	8	1
2年	14	1	10	1	9	1	8	1	8	1	5	1
3年	16	1	14	1	10	1	9	1	8	1	8	1
4年	8	1	16	1	14	1	10	1	9	1	8	1
5年	9	1	8	1	16	1	14	1	10	1	9	1
6年	16	1	9	1	8	1	16	1	14	1	10	1
合計	73	6	66	6	65	6	65	6	54	6	48	5

関川小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	6	1	6	1	7	1	6	1	11	1	4	1
2年	8	1	6	1	6	1	7	1	6	1	11	1
3年	3	1	8	1	6	1	6	1	7	1	6	1
4年	6	1	3	1	8	1	6	1	6	1	7	1
5年	6	1	6	1	3	1	8	1	6	1	6	1
6年	7	1	6	1	6	1	3	1	8	1	6	1
合計	36	4	35	4	36	4	36	4	44	4	40	4

北小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	8	1	10	1	11	1	10	1	9	1	5	1
2年	4	1	8	1	10	1	11	1	10	1	9	1
3年	5	1	4	1	8	1	10	1	11	1	10	1
4年	10	1	5	1	4	1	8	1	10	1	11	1
5年	4	1	10	1	5	1	4	1	8	1	10	1
6年	6	1	4	1	10	1	5	1	4	1	8	1
合計	37	4	41	4	48	4	48	5	52	5	53	6

南小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	74	3	62	2	52	2	58	2	61	2	45	2
2年	64	2	74	3	62	2	52	2	58	2	61	2
3年	68	2	64	2	74	3	62	2	52	2	58	2
4年	71	3	68	2	64	2	74	3	62	2	52	2
5年	78	2	71	3	68	2	64	2	74	3	62	2
6年	61	2	78	2	71	3	68	2	64	2	74	3
合計	416	14	417	14	391	14	378	13	371	13	352	13

杉並小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	61	2	55	2	46	2	44	2	61	2	49	2
2年	57	2	61	2	55	2	46	2	44	2	61	2
3年	62	2	57	2	61	2	55	2	46	2	44	2
4年	59	2	62	2	57	2	61	2	55	2	46	2
5年	68	2	59	2	62	2	57	2	61	2	55	2
6年	56	2	68	2	59	2	62	2	57	2	61	2
合計	363	12	362	12	340	12	325	12	324	12	316	12

園部小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	26	1	32	1	29	1	22	1	30	1	20	1
2年	30	1	26	1	32	1	29	1	22	1	30	1
3年	33	1	30	1	26	1	32	1	29	1	22	1
4年	38	2	33	1	30	1	26	1	32	1	29	1
5年	39	2	38	2	33	1	30	1	26	1	32	1
6年	36	2	39	2	38	2	33	1	30	1	26	1
合計	202	9	198	8	188	7	172	6	169	6	159	6

## 東成井小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	18	1	23	1	21	1	24	1	20	1	22	1
2年	33	1	18	1	23	1	21	1	24	1	20	1
3年	15	1	33	1	18	1	23	1	21	1	24	1
4年	23	1	15	1	33	1	18	1	23	1	21	1
5年	20	1	23	1	15	1	33	1	18	1	23	1
6年	18	1	20	1	23	1	15	1	33	1	18	1
合計	127	6	132	6	133	6	134	6	139	6	128	6

## 瓦会小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	13	1	14	1	12	1	14	1	12	1	11	1
2年	7	1	13	1	14	1	12	1	14	1	12	1
3年	6	1	7	1	13	1	14	1	12	1	14	1
4年	12	1	6	1	7	1	13	1	14	1	12	1
5年	13	1	12	1	6	1	7	1	13	1	14	1
6年	7	1	13	1	12	1	6	1	7	1	13	1
合計	58	5	65	5	64	5	66	5	72	6	76	6

## 林小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	24	1	18	1	26	1	22	1	27	1	23	1
2年	20	1	24	1	18	1	26	1	22	1	27	1
3年	18	1	20	1	24	1	18	1	26	1	22	1
4年	29	1	18	1	20	1	24	1	18	1	26	1
5年	27	1	29	1	18	1	20	1	24	1	18	1
6年	22	1	27	1	29	1	18	1	20	1	24	1
合計	140	6	136	6	135	6	128	6	137	6	140	6

## 恋瀬小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	17	1	11	1	18	1	9	1	16	1	9	1
2年	10	1	17	1	11	1	18	1	9	1	16	1
3年	10	1	10	1	17	1	11	1	18	1	9	1
4年	14	1	10	1	10	1	17	1	11	1	18	1
5年	11	1	14	1	10	1	10	1	17	1	11	1
6年	18	1	11	1	14	1	10	1	10	1	17	1
合計	80	6	73	6	80	6	75	6	81	6	80	6

## 葦穂小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	5	1	12	1	9	1	9	1	11	1	11	1
2年	12	1	5	1	12	1	9	1	9	1	11	1
3年	11	1	12	1	5	1	12	1	9	1	9	1
4年	15	1	11	1	12	1	5	1	12	1	9	1
5年	10	1	15	1	11	1	12	1	5	1	12	1
6年	13	1	10	1	15	1	11	1	12	1	5	1
合計	66	6	65	6	64	6	58	6	58	6	57	6

吉生小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	5	1	8	1	12	1	8	1	9	1	7	1
2年	3	1	5	1	8	1	12	1	8	1	9	1
3年	7	1	3	1	5	1	8	1	12	1	8	1
4年	4	1	7	1	3	1	5	1	8	1	12	1
5年	9	1	4	1	7	1	3	1	5	1	8	1
6年	7	1	9	1	4	1	7	1	3	1	5	1
合計	35	3	36	4	39	4	43	4	45	5	49	5

柿岡小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	20	1	22	1	27	1	22	1	21	1	15	1
2年	30	1	20	1	22	1	27	1	22	1	21	1
3年	33	1	30	1	20	1	22	1	27	1	22	1
4年	23	1	33	1	30	1	20	1	22	1	27	1
5年	31	1	23	1	33	1	30	1	20	1	22	1
6年	32	1	31	1	23	1	33	1	30	1	20	1
合計	169	6	159	6	155	6	154	6	142	6	127	6

小幡小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	14	1	15	1	11	1	15	1	17	1	13	1
2年	20	1	14	1	15	1	11	1	15	1	17	1
3年	17	1	20	1	14	1	15	1	11	1	15	1
4年	18	1	17	1	20	1	14	1	15	1	11	1
5年	14	1	18	1	17	1	20	1	14	1	15	1
6年	18	1	14	1	18	1	17	1	20	1	14	1
合計	101	6	98	6	95	6	92	6	92	6	85	6

小桜小学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	17	1	13	1	13	1	12	1	17	1	14	1
2年	15	1	17	1	13	1	13	1	12	1	17	1
3年	12	1	15	1	17	1	13	1	13	1	12	1
4年	20	1	12	1	15	1	17	1	13	1	13	1
5年	16	1	20	1	12	1	15	1	17	1	13	1
6年	13	1	16	1	20	1	12	1	15	1	17	1
合計	93	6	93	6	90	6	82	6	87	6	86	6

- ・児童数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない
- ・平成30年度から平成35年度の児童数及び学級数は、平成29年5月1日現在の住民記録登録者数から推計
- ・平成30年度以降の学級数は、1学級35人、複式学級は2学年で16人以下で試算

【中学校】(H30年度からH41年度)

石岡中学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度		平成37年度		平成38年度		平成39年度		平成40年度		平成41年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	215	7	194	6	189	6	196	6	190	6	176	6	195	6	164	5	187	6	167	5	199	6	163	5
2年	252	8	215	7	194	6	189	6	196	6	190	6	176	6	195	6	164	5	187	6	167	5	199	6
3年	214	7	252	8	215	7	194	6	189	6	196	6	190	6	176	6	195	6	164	5	187	6	167	5
合計	681	22	661	21	598	19	579	18	575	18	562	18	535	17	546	17	518	16	553	17	529	16	529	16

府中学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度		平成37年度		平成38年度		平成39年度		平成40年度		平成41年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	147	5	142	5	141	4	140	4	141	4	135	4	140	4	135	4	130	4	122	4	147	5	109	3
2年	139	4	147	5	142	5	141	4	140	4	141	5	135	4	140	4	135	4	130	4	122	4	147	5
3年	158	5	139	4	147	5	142	5	141	4	140	4	141	5	135	4	140	4	135	4	130	4	122	4
合計	444	14	428	14	430	15	423	14	422	14	416	13	416	13	410	12	405	12	387	12	399	13	378	12

国府中学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度		平成37年度		平成38年度		平成39年度		平成40年度		平成41年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	50	2	52	2	45	2	62	2	41	2	46	2	47	2	36	2	36	2	36	2	36	2	44	2
2年	72	3	50	2	52	2	45	2	62	2	41	2	46	2	47	2	36	2	36	2	36	2	36	2
3年	53	2	72	3	50	2	52	2	45	2	62	2	41	2	46	2	47	2	36	2	36	2	36	2
合計	175	7	174	7	147	6	159	6	148	6	149	6	134	6	129	6	119	6	108	6	108	6	116	6

園部中学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度		平成37年度		平成38年度		平成39年度		平成40年度		平成41年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	66	2	54	2	59	2	61	2	48	2	63	2	44	2	55	2	50	2	46	2	50	2	42	2
2年	42	2	66	2	54	2	59	2	61	2	48	2	63	2	44	2	55	2	50	2	46	2	50	2
3年	48	2	42	2	66	2	54	2	59	2	61	2	48	2	63	2	44	2	55	2	50	2	46	2
合計	156	6	162	6	179	6	174	6	168	6	172	6	155	6	162	6	149	6	151	6	146	6	138	6

八郷中学校

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度		平成37年度		平成38年度		平成39年度		平成40年度		平成41年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	158	5	130	4	131	4	135	4	114	4	117	4	115	4	113	4	128	4	111	4	130	4	103	3
2年	138	4	158	5	130	4	131	4	135	4	114	4	117	4	115	4	113	4	128	4	111	4	130	4
3年	176	6	138	4	158	5	130	4	131	4	135	4	114	4	117	4	115	4	113	4	128	4	111	4
合計	472	15	426	13	419	13	396	12	380	12	366	12	346	12	345	12	356	12	352	12	369	12	344	11

・城南中学校については、平成30年度から石岡中学校と統合再編することから石岡中学校の中に含む

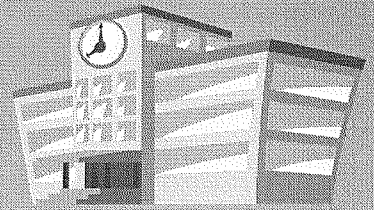
・生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級学級数を含まない

・平成29年度の生徒数及び学級数は、平成29年5月1日現在

・平成30年度以降の学級数は、1学級35人で試算



# いばらきの小中一貫教育



小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活にスムーズに移行し、不登校等の問題行動（いわゆる中1ギャップ）を解消することなどを目的として、学校や市町村が小中一貫教育に取り組み始めています。

ここでは、小中一貫教育に取り組んでいる県内の学校を紹介します。

図 義務教育課指導担当 ☎029-301-5226

－平成26年度小中一貫教育等についての実態調査（文部科学省）による－

	①施設一体型	②施設隣接型	③施設分離型
水戸市	国田小・国田中	緑岡小・緑岡中 飯富小・飯富中 双葉台小・双葉台中	12の中学校区 (①・②を除くすべての中学校区)
日立市	—	—	中里小・中里中
常陸太田市	里美小・里美中	—	—
つくば市	春日学園 (春日小・春日中)	—	14の中学校区 (①を除くすべての中学校区)

次のとおりです。

●茨城県で小中一貫教育を行っている学校は？  
県で小中一貫教育を行っている学校は

地に別々に設置されています。

③施設分離型  
小学校と中学校が隣接していない敷地に別々に設置されています。

②施設隣接型  
小学校と中学校が同じ敷地または隣接する敷地に別々に設置されています。

①施設一体型  
小学校と中学校の校舎の全部または一部が一体的になっています。

●小中一貫校にはどのような形態があるの？  
小中一貫教育を行っている学校には、次の三つの形態があります。

●小中一貫教育とは？  
小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、系統的な教育を目指す教育のことです。

## ～小中一貫教育校を訪問しました～

### 【施設分離型 1中1小】

☆つくば吾妻学園☆

つくば市立吾妻中学校・吾妻小学校

つくばAZUMA学園では、1つの中学校と1つの小学校とが小中一貫教育を行っています。教科の重点スキルを系統的に学ぶため「次世代型AZUMAプラン」を作成し、言語活動の充実を柱に授業の工夫をしています。

特に、9年間を通じてコミュニケーション能力を育てることに力を入れており、ピア（仲間）・サポート活動に取り組んでいます。6年生から8年生までが参加をするいじめ解消の「ピースフォーラム」を行い、異学年間で活発な意見交換をしました。

また、26年度は県の地域防災モデル事業の指定を受け、小中学校と地域の人たちで防災キャンプの実施や防災手帳の活用により防災意識向上の取組を行いました。



▲ピースフォーラムの様子

### 【施設分離型 1中2小】

☆つくば竹園学園☆

つくば市立竹園東中学校・竹園東小学校・竹園西小学校

つくば竹園学園では、1つの中学校と2つの小学校が「ねらい・内容・方法」を共有する小中一貫教育を行っています。

9年間の連続した学びを作るため、「学びのスキル系統表」の作成など、教員や児童生徒がそれぞれの段階の学習をしているのかを意識しながら学べるよう工夫しています。

また、学習面だけではなく、生活面においても、自主・創造・思いやりの「TAKEZONOスタイル」を共有し、スムーズに中学校生活に移行できるようにしています。

さらに、週1回中学校の教員が2つの小学校で理科の授業を一緒にを行っています。



▲中学校の教員による小学校の理科の授業の様子

### 【施設一体型】

☆水戸市立国田小中学校☆

水戸市立国田小中学校は、平成7年に県内初の施設一体型小中併設校として、開校しました。

26年度からは、新たに国田幼稚園が同じ敷地内に移転され、幼稚園児・小学生・中学生が1つの校舎で学んでいます。

同校では、9年間で1年生～4年生、5年生～8年生、9年生に分け、それぞれを「学びの基礎力の育成」「社会的実践力の育成」「国田教育の集大成」と位置づけた教育活動を行っています。

また、運動会やホタルの観察会など様々な行事を、幼稚園・小学校・中学校の合同で行っています。



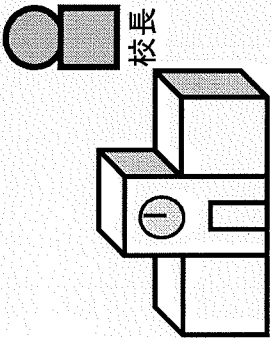
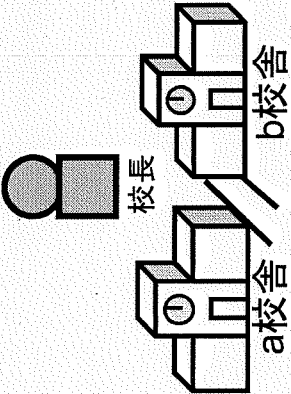
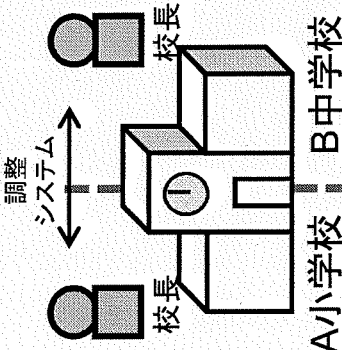
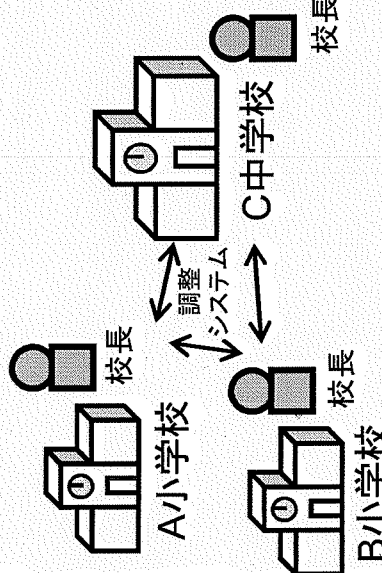
▲小学生・中学生と一緒にダンスを踊りました

# (参考) 小中一貫教育に関する制度の種類

義務教育学校		小中一貫型小学校・中学校	
	中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校	
設置者	同一の設置者	異なる設置者	
修業年限	9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織・運営	一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
要件	<p>小学校と中学校における教育を一貫して実施するためにふさわしい運営の仕組を整えることが要件</p> <p>例) ① 関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する                      ② 学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする                      ③ 一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる</p>		
免許	<p>原則小学校・中学校の両免許状を併有</p> <p>※ 当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能</p>		所属する学校の免許状を保有していること
教育課程	<p>9年間の教育目標の設定</p> <p>9年間の系統性・体系的に配慮がなされている教育課程の編成</p>		
教育課程の特例	<p>一貫教育に必要な独自の教科の設定</p> <p>指導内容の入れ替え・移行</p>	○	○
施設形態		○	×
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型		
設置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用	
標準規模	18学級以上27学級以下	小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下	
通学距離	おおむね6km以内	小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内	
設置手続さ	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	

# 小中一貫教育学校(仮称)と小中一貫型の小・中学校のイメージ

平成26年10月6日  
初等中等教育分科会  
小中一貫教育特別部会  
資料1-3

	施設一体型校舎(イメージ)(※1)	施設分離型校舎(イメージ)(※2)
小中一貫教育学校(仮称)	 <p>【例】 ・校舎が一体となっている小・中学校を一貫校化 等</p>	 <p>【例】 ・近接している小・中学校を一貫校化 等</p>
小中一貫教育学校に準じて 小中一貫教育を行う小・中学校	 <p>【例】 ・校舎が一体となっている小・中学校において 小中一貫教育を実施(既に複数校長での取組が定着)</p>	 <p>【例】 ・離れたところにある小・中学校間で一貫教育を実施 等</p>

※1 一体型校舎の形態はこれ以外にも想定される。

※2 校舎の数や構成される小・中学校の数、は校舎間の距離はこれ以外にも様々なものが想定される。

- 施設の一体・分離を問わず、
- 1人の校長が管理
  - 1つの教員組織を構成
  - 小中一貫した教育課程を1人の校長が編成

※中等教育学校においても、法令上施設の一体・分離を問わず設置可能となっている。

- 学校毎に校長
  - 教育課程は、小・中が一貫した形で各学校長が編成
  - 各学校毎に教員組織が構成されるが、小中一貫した指導を実施
- 小中一貫した教育課程の編成・実施を確保する必要
- 何らかの学校間調整システムの構築  
(例: 総合調整を担う校長をあらかじめ任命、学校運営協議会の合同設置、校長の併任など)



## 小中学校の適正規模(国, 県の考え方)

### 国(学校教育法施行規則)

- ・ 小中学校の学級数は, 12 学級以上 18 学級以下を標準とする。

(小学校: 1 学年 2 学級から 3 学級 中学校: 1 学年 4 学級から 6 学級)

- ・ ただし, 特別の事情があるときはこの限りではない。

### 茨城県(小・中学校の適正規模の基準)

- 1 小学校においては, クラス替えが可能である各学年 2 学級以上となる 12 学級以上が望ましい。
- 2 中学校においては, クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる 9 学級以上が望ましい。(国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能)